



ながえの里だより



日本医療機能評価機構 認定病院

庄原同仁病院 広報誌 第31号

発行 庄原同仁病院広報新聞委員会
〒727-0203 庄原市川北町890-1
Tel: 0824-72-7300 Fax: 0824-72-7333
e-mail doujin@sweet.ocn.ne.jp
URL <http://nagaekai.com/>

『ありがとう』は奇跡のことば

院長 村尾 文規



人は独りでは生きてはいけない存在であることは、自明の理である。それにもかかわらず、日常ではそのことをすっかり忘れている。自分の考えが間違っているかもしれないということに気づいていないことが多いのではないか。その結果、種々な程度に軋轢を生むことになる。これこそが人間の宿命なのである。そのことに気づかせてくれる作法があるとすれば、人への感謝の気持ちを示すことであろう。『ありがとう』とは、誰にでもできる感謝を表す言葉である。

われわれの職場では日常の業務のなかで、折に触れて、『ありがとう』と、また、帰宅の前には労をねぎらって『お疲れさま』と言い交わすことしている。お互いの違いに気づき尊重することが私たちの職場では何よりも大切だと思っているからである。『人を慈しみ、心の通う医療を実践すること』を理念としており、理念実現への一里塚であると思っている。茂木健一郎氏は感情や気持ちの持ち方は、脳の働きと深く関わっているという。日常生活のなかで下される判断も感情と密接に関係しているらしい。理念を実現したいという意欲は、まさしく純粋な感情である。この意欲を持ち続けることができれば、さらに高みへと歩みを続けるであろう。

朝日新聞(5月12日)の『ひとときの欄』の筆者、兼平裕子氏の文章に感銘を受けた。母上は、認知症になり、ついには施設に入所することになった。最早、何もわからない状態になっていたが、氏の誕生日に会いに行つたおり、『生んでくれてありがとう』と声をかけたところ、にこっと笑ったというのである。信じられなくて、もう一度言った。再び、にこっと笑ったという。もう何年も言葉に反応がなかった親子にとって奇跡の瞬間であったに違いない。

私たちの日常でも頻繁に『ありがとう』を聞く。とりわけ患者様からの『ありがとう』は珠玉のありがとうである。しかし、日常の業務のなかに埋没している。われわれは、もしかすると、大切なことを見落としているかもしれない? 玉が瓦礫に小石に混じっているという例えもある。玉を見つける感受性を養う必要がある。

そうすれば、感謝する機会は、さらに増えるであろう。感謝するものが見つかれば大切なものが見えてくるはずだ。再び、茂木健一郎氏の著書を引くと、喜怒哀楽を感じれば脳は活性化され、それに応じて神経回路がつくられる。大脳辺縁系が『快』と感じる情報を受け取ると大脳皮質が良く働いて『知』が作られるという。『生んでくれてありがとう』という言葉が、脳を刺激して感情のシステムを活性化して笑顔が生まれたのであろう。『ありがとう』が、奇跡の言葉となるかもしれない。私たちのささやかな運動が奇跡を生むことを願っている。

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく
仁愛の精神をもって接し、
心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。
職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。
地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

スタッフと共に成長していきます

看護部長 伊東 亜由美

4月から、看護部長に就任致しました、伊東亜由美です。

西村悦子前看護部長は、同仁病院の組織編成からはじまり病院の要である看護部の将来の進むべき道筋を示し成長させていただきました。

国は、団塊の世代が、75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」を抱え医療を必要とする人が増加する一方、病床数の削減や在宅医療を中心とした今後の医療展開が進められようとしています。

このような社会の動きに当院がどう対応していくか喫緊の課題です。

これから組織の維持、改革等々これまで以上に看護部を盛り立てていくことは非常に不安で困難を極めますが「役があなたを成長させる！あなたなら大丈夫！」と背中を押してもらい、予想以上の重責を感じながら役割が發揮できるよう努力しています。

自然環境の豊かな当院で家庭的な雰囲気を感じ少しでも癒され安心して入院生活が送っていただけるよう願っています。

患者様、ご家族の皆様、そして地域の皆様から信頼される病院であり続けること。

そして一人ひとりのスタッフが看護、介護にやりがいを感じ働ける場所であり続けること。

これまでに現場で出会った多くの方々に感謝の気持ちを忘れずスタッフ共々成長していきたいと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。



みんなで野菜と花を植えました



6月8日に園芸療法をしました。赤と黄色のミニトマトの苗とアサガオの種をプランターに患者様と一緒に植えました。とても懐かしそうにされる方や楽しそうにされる方、いろんな思いで患者様はプランターへ土を入れ種や苗を植えられていました。植え終った後、患者様から拍手がおこりました。拍手をされておられる患者様のお顔は、普段見るお顔とは別な、とても満足されたような表情を浮かべられていました。

これからも定期的に園芸療法をおこない、患者様に植物に触れてもらい、癒されてもらおうと思います。園芸療法を通じて患者様の手の運動と心のケアにすこしでも繋がればと思っています。

(看護部 伊達 円)



「ひまわり一座のみなさん」待ってました！！

5月2日、患者様がとても楽しみに待っていた、舞踊の慰問がありました。ひまわり一座の皆様です。毎年一度は慰問に来て下さいます。毎回、素晴らしい踊り、素敵な歌声、きらびやかな社交ダンスと衣装を披露して下さり、普段では見られない患者様の笑顔を引き出して下さいます。いつもは眠そうにされておられる方も、このときばかりは目を開け、耳を傾け、手拍子を取ることも。とても素敵な時間をすごされています。

楽しい時間は、あっという間に過ぎていくもので、終わりの時はとても名残り惜しく、また来てほしいと願っておられます。ひまわり一座の皆様は、その名のとおり、笑顔が素敵なひまわりのように明るく、楽しい方ばかりです。その笑顔につられて、まわりの人達も笑顔になるのでしょう。満開のひまわりの笑顔をまた目に出来ることを願いつつ、今回はこの辺で失礼いたします。（レクリエーション係より）



新しい体制になりました

リハビリテーション科

庄原同仁病院リハビリテーション科です。本年度より理学療法士2名、作業療法士1名の3名体制となり入院患者様のリハビリテーションを実施しています。私たちのモットーは患者様の言葉を「傾聴」することです。言葉や話の中の気持ちに寄り添い患者様の背景や人生を理解する努力をすることで本当に必要な支援が見えてくるのではないかと思い、日々「聴く力」を磨くよう努力しています。



石田一仁（いしだかずと）
です。頑張ります！！

この場を借りて新人の紹介をさせていただきます。4月からリハビリテーション科で勤務させていただいております石田一仁と申します。約3か月が経ち、とても良い環境の中で先輩方のご指導をいただきながら頑張っております。

日々、患者様と接する中で患者様の想いを察したり、傾聴したりすることの大切さを感じております。まだまだ学ぶことはたくさんありますが、患者様がリハビリを楽しんでいただけるよう努力していきたいと思いますのでよろしくお願いします。



新聞委員のつぶやき ~新入職員に学ぶ~ 伊達信介



私自身、昨年の5月半ばより1病棟（介護病床）から2病棟（医療病床）へ移動して1年以上経ちました。2病棟では、どちらかというと、特別な医療を必要とする患者さんが多く、業務をこなすことが精一杯で患者さん一人ひとりと毎日日々のコミュニケーションを取ることを怠っていたのではないかと感じていました。

そんな中、この春からの新入職員の患者さんに接する姿を見て感心させられました。ベッド上で寝たきりになられ、会話もすることが難しい患者さんに対し、耳元で優しく介護の動作を行う前に声掛け、説明をしていました。何の返答、反応も返ってこないにしても、それを求めるのではなく当たり前のこととして出来る姿勢、声掛けに対し自分自身、今一度、謙虚な気持ちに返り見習わなくてはいけないと感じたものです。

まず最初に優しい声掛け。これが基本であり、そのことを新入職員の姿勢を見て自分を見つめなおしていきたいと思っています。

Topics .1

患者様の笑顔が見られる食事作り

これまでの変わりご飯（ちらし寿司・たきこみご飯など）の時、粥食の方には、粥に味をつけて提供させていただいていました。しかし、お花見弁当や祝膳の時に希望をとると粥食の方も、巻き寿司やいなり寿司を希望されるので、日頃の食事でもその都度、米飯か粥かを聞いてあげることができれば、もっと食欲が出るのではないかと思い、実際にやってみました。

始めて一ヶ月半になりますが、平均 粥食31名中 22名の方が変わりご飯を希望され、とても喜んでいただいている。

週1回だった変わりご飯の日を週2回に増やし、週1回は麺の日もあり、完食される方がとても増えました。

体調の変化を見逃さないためにも、病棟の看護師に前日に希望をとつもらっています。

これからも安全で安心そして喜びを提供できる食事作りを心がけていきたいと思います。



Topics .2

川北小学校の生徒さんとの交流会



7月5日、川北小学校の生徒さん21名が来て下さり患者様に歌や演奏を披露してくださいました。患者様みなさん、大変喜んでください、いい笑顔で楽しいひと時を過ごしました。後日、患者さんや職員が書いたメッセージをお礼に送らせていただきました。



～山ちゃんの旅日記～

看護部 山吉広尚

この前広島市内に行ってきました。先に用事を済ませて本来の目的である猫カフェへ行きました。場所は本通りの一本南側の道路。通称“裏袋（ウラブクロ）”と言われている通りで袋町ビルの三階です。そこには七～九匹の猫がいて、写真撮影OKなので皆、カメラを片手に持ち、もう一方の手に猫ジャラシ等猫グッズであやしながら撮影を楽しんでいます。この店に興味があり、行ってみようと思われる方はいろいろと店のルールがありますから守ってください。



新入職員紹介

次の方が新職員として入職されました。よろしくお願いします。

調理師 石川 宏 H27年5月入職
看護師 大田実果 H27年9月入職
看護師 三原美香 H28年4月入職

ケアワーカー 藤井菜々美 H28年4月入職
理学療法士 石田一仁 H28年4月入職
管理課 熊本二郎 H28年4月入職



編集後記

諸事情により、ながえの里だより30回平成26年8月より休刊しておりましたが、今回から思いを新たに発刊に至りました。改めて、本院の基本理念にもとづいた取り組みや、催し等を発信し、皆様に親しまれる紙面作りを目指します。（西村徹）